



広重版画より 三島 朝霧

第2379回例会

2024.3.7曇

司会

小塚英樹君

国歌斉唱

四つのテスト

ロータリーソング

「奉仕の理想」
指揮 千葉慎二君

会長挨拶

会長 平出利之君

いよいよあさって行われる苗栗RC創立53周年式典に、参加をして来ます。既に今日出発された方もおられます。今回が初めての方や2回目の方もおられると思いますが、団体行動をしますので、時間だけは守っていただきたいと思ひます。これまで準備をして頂きました国際奉仕委員の皆様には感謝申し上げます。あとは式典の懇親会で、どれだけの酒を飲まなければならないかを心配していますが、「なるようになれ」と覚悟はできております。しかし、しっかりと交流をしてきたいと思っております。それから、大事なパスポートを行かれる方は、忘れないようにお願いします。

“こんにちは、ようこそ”

ビジター 稲葉雅之ガバナーノミニ（伊東西RC）
小川嘉洋君（次々年度地区幹事・伊東西RC）

出席報告

	出席総数	出席率	マーク	出席正率
前々回	40/50	80.00%	44/50	88.00%
今回	33/48	68.75%	会員総数	53名

欠席者 芦川君、窪田君、酒井君、杉崎君、清水君、須田君、諏訪部君、南木君、原君、藤江君、前田(房)君、前田(博)君、町野君、森藤君、渡邊君

おめでとう

会員誕生日 伊丹君、西本君

幹事報告

- 1.本日例会の卓話は小川成俊君です。ガバナーノミニ稲葉雅之君、地区幹事予定者小川嘉洋君に出席をいただきありがとうございます。
- 2.次回例会は、3月14日(木)18:30呉竹 渡邊真生君の卓話です。
- 3.4月11日に予定されておりましたガバナー補佐訪問が中止となりました。通常の夜間例会です。
- 4.地区大会の記録映像が地区ホームページからダウンロードできます。
- 5.4月22日(月)11:30静岡市グランディエールブケトーカイにおきまして「女性会員未来desingセミナー2024」が開催されます。
- 6.苗栗RC創立式典の交流事業費用助成金が理事会で承認されました。
- 7.社会奉仕事業として4月5日(金)13:00富士ハーネス寄附訪問を行います。
- 8.職業奉仕事業として5月9日(木)13:00株式会社BRICS様の本社工場の見学を行います。改めて職業奉仕委員会より案内がございます。
- 9.次年度、手帳の写真を新しくいたしますので、4月例会で撮影を行います。

生い立ち(自己紹介)

小川成俊君

株式会社伊豆フェルメンテの小川成俊です。

私は、昭和35年(1960年)1月に伊豆の国市(旧菰山町)に生まれました。子供の頃は落ち着きが無く、自分では記憶が無いのですが、初めて買ってもらった三輪車をいずっぽこ(駿豆線)の車両の中で乗りたいと両親を困せたり、外出時急に「行きたくない」と母親を困せさせた超わがままな子供だったと近所の人から言われていましたが、小学校4年の時、父親の転勤(父は今はありませんが、伊豆の国市田京にあった東洋醸造株式会社に合成酒の製造に従事しており、技術者として吸収合併した工場に転勤、毎日会社で一杯引っかけ帰ってくる程、酒が大好きな父親でした)に伴い愛知県の三好町(現在はみよし市)に転校してからは、「お山の大將から新参者になり、短気な性格は変わりませんでした、高校1年の秋に日本大学三島高等学校に転校する頃にはクラスでも目立たないごく普通(成績も同様)の高校生になっていました。自分が生まれ育った菰山は北条家ゆかりの地として一昨年放映されたNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」でも取り上げられましたが、平成27年(2015年)に「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとして世界遺産に登録された「菰山反射炉」は子供の時、砂利びきの上で三角ベースをしたり、当時炉の周りを銃剣柵(銃剣とは銃の先端部に装着して、槍のような戦い方ができるように工夫された武器)で囲っており、その中に弾丸が残っていると聞いた時は銃口に指を入れたりして遊んでいました。まさか自分が子供の時に遊んでいた場所が世界遺産に登録されるとは当時では考えられませんでした、今では「どちらにお住まいですか?」と聞かれると必ず「世界遺産の菰山反射炉の近くです」と答えるようになりました。学生時代はサッカー部に所属(中学生でサッカー部に入部したのも、野球部に入部するつもりで、グラウンドに行ったら入部希望者が多く、同じグラウンドで練習をしていたサッカー部の入部希望者が少なかったこともあり、1年生から即レギュラー、日本大学三島高等学校でも2年生で補欠に選ばれるようになりましたが、成績も急降下、夏合宿前に退部しました。私には息子が一人と娘が二人いますが、高校卒業までバスケットボールを続けた娘二人からは今でも中途半端に辞めたくせにと言われることがあります。)、社会人になってからはソフトボールチームに入り、三島のリーグに所属していた時期もありましたが、今は天気の良い週末に女房と出かける散歩が唯一の趣味となりました。また「巨人、大鵬、卵焼き」の時代に育った事もあり、大の巨人ファンは今も変わらず、巨人の試合放映がある日は必ず観戦しますし、負けた時は不機嫌になってしまうので、家族は誰も近寄りません。就職は自分の生まれ育った菰山が好きなので、第一希望は地元で貢献したいと考え、当時の菰山町職員、JA職員を志望しましたが、見事に不採用。第二希望は地域活動に参加出来る会社、父親の転勤で転校した経験から転勤のない会社、自分の力を存分に発揮出来る地元の企業(当時は自分の能力をかなり過信しており)を希望、昭和57年(1982年)3月株式会社伊豆味噌醸造所に入社しました。私は短気以外にいい加減なところもあり、高校1年の秋に日本大学三島高等学校に転校する時は、安易に私学だし(愛知県の公立高校に在学、学力的には問題はないと勝手に考え)、また男女共学(実際は男女別クラスでしたが)と聞いて転入試験を受けました。大学受験の時「統一試験」の結果で学部を選択、

就職試験の時「就職ガイダンスがあり、五十音順に企業名が掲載されていました。既に勤の良い方はお気づきかもしれませんが、「あ」から始まり、「い」そうです。株式会社伊豆味噌醸造所です。株式会社伊豆味噌醸造所の募集要項には勤務地は三島市八反畑、賞与年3回支給(昨年実績)、日曜日休み、退職金制度ありと記載されており、即面接希望の電話をしました。簡単な筆記試験と面接があると聞きましたが、面接で面接官だった業務部長から「他の企業に応募をしているのか?」「出来れば採用の方向で検討している」とのお言葉をいただき、お世話になることを決めました。もちろん筆記試験の結果は入社してから怖くて、聞いておりません。当時会社で「みそ・金山寺」を年間通して製造、みそで使用する米糴の製造技術を活かして冬は「あま酒」を、夏はあんみつ・みつ豆等の「デザート」、「ジャム」、「ドリンク」を製造、販売していました。特にあま酒は売上、利益率も良く、あま酒を作るのに必要な人材を確保しておくために夏場の仕事としてデザート類(手作業が多く、人海戦術だった)を作ったとか?当時現金支給だった課長さんの冬の賞与は封筒が立ったとか?言うわさを聞いたこともありました。現在ではあま酒も年間商材となりましたが、あま酒ブーム以降大手企業の参入や多種多様なタイプのあま酒が増えてきました。静岡県産の農産物(いちご、東伊豆のニューサマーオレンジ、三ヶ日みかん、近年では浜松産のブルーベリー等)や国産原料(山形県産黄金桃、白桃あかつき等)を使用したデザートやジャムを製造、OEM商品の製造(他企業の商品を委託製造)を受け賜うことが増えてきました。会社では製造部から始まり、営業、業務、商品企画等の業務に従事し、平成25年(2013年)から取締役営業部長に就任し、一昨年(令和4年)9月の株主総会で代表取締役役に就任いたしました。

人生には色々な転機があります。昭和61年(1986年)26歳で結婚した時、平成2年(1990年)30歳で3人の子持ちとなった時、そしてバブルが弾け平成14年(2002年)金融機関のご援助をいただいて「株式会社伊豆フェルメンテ」として再出発した時、自分の将来をどう考えるか?悩んだこともありました。私の座右の銘は「切磋琢磨」です。この言葉は先代の社長 片野勇さんが座右の銘としており、私が入社した頃の頃お聞きして、自分もこの言葉に恥じない社会人になりたいと思い、今も使わせていただいております。代表取締役役に就任して「三島西ロータリークラブ」の会員、三島の沢地工業団地に弊社の平成台工場がある関係で「三島沢地工業団地協同組合」、そして「三島スルガ会」の役員を引き継ぐことになりました。特に「三島西ロータリークラブ」は創立50周年をむかえ、記念事業として行われる親睦一座「ポールハリスとアルカポネ」では当初主役のアルカポネの役を引き継ぐ予定でしたが、現会長の平出さんが快諾?していただき、室伏実行委員長はじめメンバーの熱意に圧倒されながらも、公演が大成功に終わったこと、そして野田委員長のもと記念誌委員として微力ながら携われたこと等大変貴重な経験させていただきました。ロータリークラブには各企業の経営者、経営トップの方々が入籍しており、色々な経験談や各企業様が抱えている課題、問題点等貴重な話をお聞きする機会があります。このような機会をいただけたことを感謝し、これからも会員の皆様と親睦を図り、仲間に入れていただきたいと強く思っています。最後に、私も今年で64歳となり、社会人として集大成を向かえる年齢となりました。まだまだ「人生は長い」ことを信じ?これからも「切磋琢磨」してまいります。

※紙面の都合でスマイルは次号に掲載します。

(週報担当:西川洋司)